

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320104

研究課題名(和文) アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on Language Education Methods and Cross-linguistic Proficiency Evaluation Methods for Asian Languages

研究代表者

富盛 伸夫 (TOMIMORI, Nobuo)

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：50122643

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的と年度計画にもとづき3つの研究班を組織して、アジア諸国における外国語教育法の調査研究を軸に、EUでのCEFR研究の最新成果を基礎的な参照点としつつ、高校・大学・社会の連携を視野にいれて研究を遂行した。

特に、研究対象地域での現地調査を含め、国際シンポジウム・講演会・研究会を開催してアジア諸語へのCEFRの適用可能性を研究し、2冊の研究成果報告書およびWeb上で発信につとめた。

研究成果の概要(英文)：Following the project framework of our research goal and annual planning, the three working groups have achieved various concrete research outcomes of fieldworks and discussions, in their particular domains: (a) study of foreign language education methods in Asian countries; (b) study of development of implementation of Common European Framework of Reference for Languages in Non-EU areas; (c) study of foreign language proficiency evaluation with special regards to other educational and social relations (not only in high school level, but in permanent education level as well).

The research activities made by participant researchers of the project have been first exchanged in domestic and specific colloquia, and then extended to various international symposia held by relevant foreign research institutions. These contributions and outreaches are now published in our two research reports (in 2014 and 2015) which are made available in our website.

研究分野：一般言語学、ロマンス言語学、言語教育学

 キーワード：アジア諸語 学習達成度測定法 通言語的評価法 言語能力評価 CEFR 言語教育法 外国語教育政策  
 言語政策

## 1. 研究開始当初の背景

我が国の中等教育・高等教育機関では地球の課題に取り組む上で必要な世界諸地域の人々と協働するグローバル・インターフェース力を持ち、英語のみならず複数の言語運用能力を備えた人材の養成が急務である。しかるに現在、アジア諸語の効果的な教育法と個別言語の枠を越えた厳格な成績評価法の開発は、ほとんど着手されていない。その緊急性に反して、特に日本と密接な関係にあるアジア諸語の普及はさほど進まず、また必要となる教育法の統合的な開発も個別言語の枠を越えてはほとんど着手されていない。さらに GPA などの成績評価手法が一般化される一方で、通言語的成績評価の透明性は確保されているとは言い難い状況である。

他方、ヨーロッパ連合(以下、EU)では、EU 統合への要として構想された言語政策のひとつ、外国語教育法の改革と言語能力評価基準の共通性を掲げた「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」(CEFR: Common European Framework of Reference for Languages、以下 CEFR)の適用は理論面・実践面ともに急速に進み、10年以上の実施期間を経て現在では実用域に入り、その世界的普及は進みつつある。しかしながら、非 EU 諸語への CEFR の適用可能性の研究は着手されているものの、その困難さは、文字体系・音声・文法の隔たり、そして文化的ギャップのために、通言語的測定尺度は確立されていない。ここにこそ、日本やアジア諸国の当事者が研究活動を先鋭化して、新たな国際的な共通枠組みを開発・提案する可能性を有していることの認識を共有し、東京外国語大学の研究拠点としての利点と先行する科学研究の実績を元に本研究組織の形成の背景および動機となっている。

## 2. 研究の目的

アジア地域の多様な言語を主たる対象にして、通言語的かつ透明性の高い言語能力評価尺度の研究開発をめざすために、3つの主たる目的に活動内容を集約した。

- (1) 各国の大学等高等教育機関で教授法や成績評価法を調査することにより、より汎用性の高い言語能力到達度測定尺度に向けた開発準備を行なう。
- (2) 上と並行して、CEFR など先行する外国語能力評価システムの最新動向調査を行うとともに、特に CEFR のアジア諸語への適用状況を現地調査し、CEFR を批判的に援用した通言語的共通参照基準のモデルの開発に向かう。
- (3) 大学等高等教育レベルに加え中等教育及び生涯教育など現代社会のニーズにも研究の範囲として対応する。

その上で、アジア諸語の言語教育の実践に

研究成果を反映し、広く社会的に還元するための国際研究集会や講演会・研究会を企画・実施し、成果を公開することとした。

## 3. 研究の方法

本研究グループは、研究目的と範囲に適した3つの作業班:

A 班: アジア諸国における外国語教育法・能力評価基準・測定方法に関する研究

B 班: EU、カナダ、オセアニア圏諸国の外国語能力評価システムの最新動向調査と通言語的透明性の検証、汎用性の高い基準適用可能性モデルの開発

C 班: 中等教育及び社会的ニーズに対応した外国語能力到達度評価基準に関する研究を組織して研究分担者および協力者が所属し、所定の期間内に遂行可能なそれぞれの課題を分担し、現地調査を含む研究交流と成果発信を行った。研究代表者が責任を持つ統括班は全体計画の円滑な運営を担保した。

## 4. 研究成果

(A 班): 国際連携大学及びアジアの諸大学で外国語教育システム立案者や言語教育従事者(教師等)に対する聞き取り調査や共同研究交流や発表を行うとともに、現地調査により Web や二次資料の情報では得られない信頼度の高い情報が入手できた。

(B 班): 現時点での CEFR の浸透度に関する高等教育機関等での最新の取り組み状況を調査した。日本の教育機関においても CEFR 基準の高等教育への適用について調査と検証作業を行った。特に、CEFR に代表されるコミュニケーション達成能力の通言語的尺度と従来の言語構造の学習進度に即した基準との相関を研究し、成果を A 班と共同の研究集会で精査した後、国内外の学会で成果発表をおこなった。

2014年10月より統括班の富盛を中心に、EU 言語に加えてアジア諸語の学習者を対象に、CEFR 項目の再検討を目的とした、言語能力自己評価調査を実施した。東京外国語大学、神田外語大学、四天王寺大学等の外国語科目履修中の学生を対象に、独自に開発した能力記述項目からなる質問票を用意し、A1 と A2 レベルについて延べ 1476 人のデータを収集し分析した。同程度の学習時間に対して、いわゆる EU 言語の類型論的特質(文字、音声、統語構造や構文等)との相関、また、特にアジア諸語に深く関与する社会・文化的コミュニケーション上の語用論的要素(依頼、断り、提案、売買行為ほか)が加わる項目についての有意差が抽出できそうな傾向が見られた。

(C 班): 中等・高等教育機関においてアジア諸語を含む外国語科目の単位認定・教材・学

習への活用実態などや、文科省他の言語教育政策の動向などを調査した。東京外国語大学の教員チームを主力にした CEFR-J や東京外国語大学留学生日本語教育センターの「JLC 日本語スタンダード」の開発には、本研究プロジェクトのメンバーも参加しており、深い連携が得られている。

上記の他、国際・国内の研究連携組織との研究協力体制の構築・遂行につとめ、言語能力評価法分野の専門家との共同研究がなされた。2013年3月東京外国語大学世界言語社会教育センターとの共催による国際シンポジウム「外国語教育と異文化間教育」では言語教育と社会・文化的要素の相関性を考察した。2015年1月東京外国語大学語学研究所との共催による国際シンポジウム「CEFR の非 EU 諸国への拡大 - その展望と問題点 -」(Expansion of CEFR into non-EU countries: perspectives and problems)では、CEFR の世界的展開に伴う言語教育と異文化間コミュニケーションの理論面・実際面の問題を議論した。海外の専門的知識の提供者による研究会・講演会等を6回開催した他、分担者・協力者は本研究プロジェクトの成果発信を国内外で行っている。

本研究プロジェクトを通して実施したアジア地域への現地調査では、英語教育と日本語教育の一部を除いては CEFR そのものへの理解度が高くなく、能力レベル設定に便利な国際的な標準という受け止め方が多く、国ごと、言語ごとの評価基準に変えて、あえて導入する緊急性が感じられなかったのが現実である。各国においては社会の中での言語教育のもつ位置づけそのものが大きく異なることと、現場では言語能力評価システムの開発までの余力がないことも実情としてある。国内でも一部の個々の教師・研究者グループでは開発研究の取り組みがなされ、EU の研究者とのリンクも強まりつつある中で、日本の教育政策が現在、「国際化」から大きく「グローバル化」への舵を切り CEFR が政策的視野の中に入ってきたことで教育現場では急遽対応に迫られているのと同様に、アジア・オセアニア地域の多くの地域でも通言語的共通枠組みへの認識が強まり CEFR 自体の再検討の必要性が確認された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 34 件)

根岸雅史、Lexile Measure による中高大の英語教科書のテキスト難易度の研究、ARCLE、査読無、9巻、2015、6-16

Soh, Hooi Ling and Hiroki Nomoto、Degree achievements, telicity and the verbal prefix meN-in Malay、Journal of Linguistics、査読有、51巻、2015、147-183

山崎吉朗、外国語教育と私立学校、日本私学教育研究所紀要、査読無、51巻、2015、1-4  
Nomoto, Hiroki and Kartini Abd. Wahab、Person restriction on passive agents in Malay: Information structure and syntax、NUSA、査読有、57巻、2014、31-50

Takagaki, Toshihiro、Te digo dónde { es / está } el taller- ser の意味は?、スペイン語研究、査読有、29巻、2014、87-102

萬宮健策、ウルドゥー語における他動性、東京外国語大学語学研究所論集、査読有、19巻、2014、265-275

藤森弘子・前田真紀、can-do行動目標に基づいたタスク型初級教材の開発と実践 - タスク遂行のプロセスに焦点をあてて -、日本語教育方法研究会誌、査読無、50巻、2014、5-8

富盛伸夫、日本学術会議公開シンポジウム「学士課程教育における言語・文学分野の参照基準」からみる日本の高等教育における言語教育の近未来像、「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」研究プロジェクト中間報告書(2012-2013)、査読無、1巻、2014、1-10

富盛伸夫、CEFRのグローバル化と異文化間コミュニケーション能力の諸問題: Michael Byram and Lynne Parmenter (ed), The Common European Framework of Reference - The Globalisation of Language Education Policy - (Bristol, 2012)を読んで、「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」研究プロジェクト中間報告書(2012-2013)、査読無、1巻、2014、63-72

藤森弘子、アカデミック日本語教育におけるアカデミックタスクの意義 - 全学日本語プログラムでの実践を踏まえて、「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」研究プロジェクト中間報告書(2012-2013)、査読無、1巻、2014、51-62

藤森弘子、Can-doリスト開発プロセスにおける学習者の自己評価とその分析、東京外国語大学留学生日本語教育センター論集、査読有、40巻、2014、53-68

田原洋樹、外国語としてのベトナム語概観、「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」研究プロジェクト中間報告書(2012-2013)、査読無、1巻、2014、73-81

上田広美、外国語としてのカンボジア語教育と能力測定に関する報告、「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」研究プロジェクト中間報告書(2012-2013)、査読無、1巻、2014、89-96

拝田清、『オーストラリア先住民語入門』 - Skypeを利用した双方向授業の試み -、国際シンポジウム報告集2013 WoLSEC2011-II

「豪州における先住民語教育と日本の少数言語教育」、査読無、1巻、2014、37-47

① 梶田清、国際シンポジウム「豪州における先住民語教育と日本の少数言語教育」総括、国際シンポジウム報告集 2013 WoLSEC2011-II「豪州における先住民語教育と日本の少数言語教育」、査読無、1巻、2014、48-53

② 梶田清、言語教育における文化的知識の重要性 - オーストラリア先住民語教育を例にして -、国際シンポジウム報告集 2013 WoLSEC2013「外国語教育と異文化間教育」、査読無、1巻、2014、171-182

③ 丹羽京子、ベンガル語を学ぶ - その文化的背景を知ることの必要性 -、国際シンポジウム報告集 2013 WoLSEC2013「外国語教育と異文化間教育」、査読無、1巻、2014、157-170

④ 山崎吉朗、フランス語教育の高大連携—中等教育における英語以外の外国語教育の現状、ドイツ語教育（日本独文学会ドイツ語教育部会）、査読無、18巻、2014、11-15

⑤ 山崎吉朗、高等学校における複言語教育の現状・展望と大学教育との連携について、「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」研究プロジェクト中間報告(2012-2013)、査読無、1巻、2014、11-22

⑥ 富盛伸夫、海外メディア教材の授業活用と成果発信の試み - 言語教育の多様化と社会貢献の観点から -、外国語教育学会紀要『外国語教育研究』、査読有、16巻、2013、55-72

⑦ 高垣敏博、スペイン語受動表現における義務的な<por>動作主句について、東京外国語大学論集、査読有、87巻、2013、145-168

⑧ 根岸雅史、英語到達度テストの『いつ』と『なに』、AELE言語教育評価研究、査読有、3巻、2013、2-9

⑨ 三宅登之、行為連鎖モデルから見た使役を表す兼語文のバリエーション、東京外国語大学論集、査読有、87巻、2013、83-100

⑩ 矢頭典枝、ケベック・フランス語憲章の社会言語学的分析—言語計画と言語選択の観点から—、ケベック研究、査読有、5巻、2013、43-64

⑪ 山崎吉朗、国際バカロレアと日本 過去、現在、未来 - 私立学校と国際バカロレア -、文部科学教育通信（ジアース教育新社）、査読無、325巻、2013、28-30

⑫ 山崎吉朗、中等教育における複言語教育の現状と問題点、複言語・多言語教育研究（JACTFL）、査読無、1巻、2013、20-33

⑬ Masashi Negishi, Tomoko Takada, and Yukio Tono, A progress report on the development of the CEFR-J, Studies in Language Testing 36 Exploring Language Frameworks Proceedings of the ALTE Krakow Conference, July 2011, 査読有、2013、135-163

⑭ Takashi Narita, Ausdrücke benefaktiver Bedeutung - ein deutsch-japanischer Kontrast, MAEDA Ryojo (Hrsg.): Transkulturalität -

Identität in neuen Licht. Asiatische Germanistentagung in KANAZAWA 2008, 査読有、2012、154-160

⑮ 藤森弘子、上級日本語教育に関する一考察—ディベートを活用して—、国際シンポジウム編日本語教育論集、査読有、第8号、2012、4-18

⑯ 南潤珍、日韓対照言語学の観点からみた韓国語文法学習の課題とコーパスの活用(原題は韓国語)、国語教育研究、査読有、30、2012、315-341

⑰ Masashi Negishi, Yukio Tono and Yoshihito Fujita, A Validation Study of the CEFR Levels of Phrasal Verbs in the English Vocabulary Profile, English Profile Journal, 査読有、Volume3、2012、DOI:

<http://dx.doi.org/10.1017/S2041536212000037>

⑱ 富盛伸夫、野元裕樹、Application of International Media Information and Approaches on Internet Transmission—From perspective of cultural education and social contribution—、国立シンガポール大学 CLaSIC 2012, 査読有、2012、[http://www.fas.nus.edu.sg/cls/clasic2012/Conference\\_Programme.htm](http://www.fas.nus.edu.sg/cls/clasic2012/Conference_Programme.htm)

⑲ Nomoto, Hiroki & Kartini Abd. Wahab, Kena adversative passives in Malay, funny control, and covert voice alternation, Oceanic Linguistics, 査読有、51、2012、360-386、10.1353/ol.2012.0017

⑳ Yukio Tono, Masashi Negishi, The CEFR-J: Adapting the CEFR for English Language Teaching in Japan, Framework & Language Portfolio (FLP) SIG Newsletter, 査読有、No.8、2012、5-12

〔学会発表〕(計 26 件)

㉑ Nomoto, Hiroki, Givenness of Individuals and eventualities: Perspectives from Malay passives, The Second International Workshop on Informational Structure of Austronesian Languages, 2015年2月11日～13日、Tokyo University of Foreign Studies (東京)

㉒ 南潤珍, “Korean Language and Literature in University education of Japan”, 2015年2月6日～7日, “Korean Language and Literature in the Global Age” International Conference, The Center for Korean Language and Literature at Seoul National University (韓国)

㉓ 山崎吉朗、複言語教育の現状と未来、日本フランス語フランス文学会九州支部大会、2014年12月6日、長崎外国語大学(長崎)

㉔ 南潤珍、語彙項目の内的特性を反映させた韓国語教育用の語彙目録についての研究(原題韓国語)、第4回朝鮮語教育学会・朝鮮語研究会 合同大会、2014年9月8日、早稲田大学戸山キャンパス(東京)

㉕ 川上茂信、Debi vs. Devi, SELE2014 (スペイン語学夏期セミナー)、2014年9月2日、ヤマハリゾートつま恋(静岡)

Kenji Okano, A Preliminary Study on the Pitches of Myanmar Atonic Syllable, Meeting on Linguistics, 2014年8月14日、University of Yangon (ミャンマー)

Hiroki Nomoto, A compositional analysis of Malay anaphoric expressions, The 18th International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL), 2014年6月13日～15日、Universita degli studi di Napoli "L'Orientale" (イタリア)

山崎吉朗, 言語政策研究の立案と実践の融合 -JACTFLの設立および中等教育における複言語教育の現状と今後の政策-, 日本言語政策学会, 2014年6月7日、千葉大学 (千葉)

Hiroki Nomoto, Decomposing Malay anaphoric expressions, The 21st Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA), 2014年5月23日～25日、University of Hawaii at Manoa, USA

根岸雅史, An update on the CEFR-J project and its impact on English language education in Japan, ALTE International Conference in Paris, 2014年4月10日～11日、Cité Internationale Universitaire de Paris (フランス)

野元裕樹, マレーシア語教育と言語コーパス、外国語教育学会2013年度シンポジウム「外国語教育と言語コーパス」、2014年3月2日、東京外国語大学 (東京)

Tohihiro Takagaki, Variación gramatical del español: Algunos resultados del proyecto VARIGRAMA, Congreso Internacional Sobre el Español y la Cultura Hispánica en Japón, 2013年10月3日、東京セルバンテス文化センター (東京)

矢頭典枝, "What is Canadian English?"-The perception and teaching of English varieties in Japanese universities, 日本カナダ学会, 2013年9月21日、神田外語大学 (千葉)

根岸雅史, 「特定の課題に関する調査」に見る中学生の英語発信力: CEFR基準特性の観点から、全国英語教育学会, 2013年8月10日、北海学園大学 (北海道)

成田節, コーパスとドイツ語研究・ドイツ語教育 (日本語で講演), 2013年「語料庫と外語教学研究」国際研討会, 2013年3月17日、東呉大学外国語文學院 (台湾)

Nomoto, Hiroki, Number in classifier languages, Linguistics Colloquium, 2013年2月15日、ミネソタ大学 (米国)

Tomimori, Nobuo & Hiroki Nomoto, Application of international media information and approaches on Internet transmission -From perspective of cultural education and social contribution, CLS International Conference CLaSIC 2012, Culture in Foreign Language Learning: Framing and Reframing the Issue (招待発表), 2012年12月6-8日、シンガポール国立大学 (シンガポール)

拝田清, Teaching Yolŋu Languages and Culture: Using Skype to interact, The Fifth CLS

International Conference CLaSIC 2012, Culture in Foreign Language Learning: Framing and Reframing the Issue (招待発表), 6-8 December 2012, National University of Singapore (Singapore)

富盛伸夫, 海外メディア教材の授業活用と成果発信の試み、外国語教育学会第16回研究報告大会, 2012年11月11日、東京学芸大学 (東京都)

根岸雅史・長沼君主・工藤洋路, 日本人学習者ライティングコーパスに基づいた CEFR レベル別基準特性の分析、日本語テスト学会 (JLTA) 第16回全国研究大会, 2012年10月27日、専修大学生田キャンパス (神奈川県)

② Toshihiro Takagaki, Diccionarios Español-Japonés, 国際研究集会《Los verbos de movimiento: estudio teórico y aplicación lexicográfica》のシンポジウム<La elaboración de diccionarios> (招待発表), 2012年10月4日、5日、マドリード自治大学哲文学部 (スペイン)

③ 南潤珍, 教材分析からみた日本語話者のための韓国語文法教育の現状 (原題; 韓国語), 第3回朝鮮語教育研究会・朝鮮語研究会 合同研究大会 (招待講演), 2012年9月8日、東京大学駒場キャンパス (東京都)

④ 根岸雅史, シンポジウム「日本の英語教育の将来: Can Do ベースの新しい英語能力到達度指標 CEFR-J開発の経緯と活用のヒント」, 第38回全国英語教育学会 愛知研究大会 (招待講演), 2012年8月5日、愛知学院大学日進キャンパス (愛知県)

⑤ Nomoto, Hiroki, Consonant-changing rhythmic reduplication in Malay as identity avoidance, Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA), 2012年6月26-30日、中央研究院 (台湾)

⑥ Nomoto, Hiroki & Kartini Abd. Wahab, Passives without 'by' in Malay, Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA), 2012年6月26-30日、中央研究院 (台湾)

⑦ Nomoto, Hiroki & Ayaka Shiota, Consonants in Malay rhythmic reduplication, International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL), 2012年6月22-24日、ケラニヤ (スリランカ)

〔図書〕(計7件)

富盛伸夫, アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 -成果報告書 (2014) -, 『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 -成果報告書 (2014) -』編集委員会, 2015, 140

萬宮健策, 現代インド5 周縁からの声所収 『言語問題とアイデンティティ - シンディー語の事例から』, 2015, 277-296

根岸雅史, 英語教育学の—理論と実践の統合—全国英語教育学会第40回研究大会記念特別誌, 全国英語教育学会, 2014, 436

Takagaki, Toshihiro, Variación gramatical del español: Algunos resultados del proyecto VARIGRAMA, Actas del Congreso Internacional Sobre el Español y la Cultura Hispánica, Instituto Cervantes de Tokio., Orient Black Swan, 2014, 248-264

田原洋樹, 白水社、ベトナム語のしくみ<<新版>>, 2014, 146

根岸雅史, 大修館書店、英語到達度指標 CEFR-Jガイドブック, 2013, 313

矢頭典枝, 明石書店、「英語とフランス語の政治舞台オタワ - バイリンガル首都物語」『カナダを旅する 37 章』(編著: 竹中豊、飯野正子), 2012, 320 (187-195)

[その他]

ホームページ: 科学研究費助成事業基盤研究B「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究」

[http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/ASIA\\_kaken/index.html](http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/ASIA_kaken/index.html)

ホームページ: ウルドゥー語、スインディー語を日本語で学ぶページ

[http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/mamiya\\_k/index.html](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/mamiya_k/index.html)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

富盛 伸夫 (TOMIMORI, Nobuo)

東京外国語大学・名誉教授

研究者番号: 5 0 1 2 2 6 4 3

### (2) 研究分担者

高垣 敏博 (TAKAGAKI, Toshihiro)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号: 0 0 1 4 0 0 7 0

根岸 雅史 (NEGISHI, Masashi)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号: 5 0 1 8 9 3 6 2

成田 節 (NARITA, Takashi)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号: 5 0 1 8 0 5 4 2

三宅 登之 (MIYAKE, Takayuki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号: 4 0 2 5 9 2 1 3

藤森 弘子 (FUJIMORI, Hiroko)

東京外国語大学・留学生日本語教育センター・教授

研究者番号: 5 0 2 8 2 7 7 8

川上 茂信 (KAWAKAMI, Shigenobu)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号: 4 0 2 1 4 5 9 8

岡野 賢二 (OKANO, Kenji)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号: 6 0 3 7 6 8 2 9

上田 広美 (UEDA, Hiromoi)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号: 6 0 2 9 2 9 9 2

萬宮 健策 (MAMIYA, Kensaku)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号: 0 0 4 0 3 2 0 4

南 潤珍 (NAM, Yunjin)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号: 5 0 1 8 9 3 6 2

野元 裕樹 (NOMOTO, Hiroki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・講師

研究者番号: 1 0 5 8 9 2 4 5

拝田 清 (HAIDA, Kiyoshi)

四天王寺大学・教育学部・准教授

研究者番号: 0 0 5 9 7 7 1 8

矢頭 典枝 (YAZU, Norie)

神田外語大学・外国語学部・准教授

研究者番号: 1 0 5 1 2 3 7 9

田原 洋樹 (TAHARA, Hiroki)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・講師

研究者番号: 6 0 3 3 1 1 3 8